

○研究主題

「教科等の見方、考え方を働かせて、自分の言葉で表現し、次の問いにつながる学び」

■研究の概要

本校の児童は、心優しい良さをもっている。上級生と下級生の仲も良い。縦割り活動を教育活動に取り入れることで、リーダー性や思いやりの心もより育てていると感じる。また、素直で、言われたことをしっかり行うことができる。一方で、自分で考えて自主的に物事に取り組んだり、授業で学んだことを生かして、より深い学びへとつなげたりする力や自分の言葉で表現したりすることが苦手である。また、新学習指導要領の実施に伴い、新しい3つの観点で評価していくことも考慮し、本年度は、次のような研修を進めている。

- ① 教師が教科の見方・考え方を自分のものとして受け止め、評価規準を明確にすると共に、教科の見方・考え方を働かせた時の子供の姿をイメージしながら、授業構想をたてていく。
- ② 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、子供たちで話し合う時間を確保したり、子供たちが自分たちで話し合いを進めるための話し合いマニュアルを示したり、話し合いに役立つ資料や教師の助言等を適切に子供に与えたりする。
- ③ 評価の第3観点である「主体的に学習に取り組む態度」の評価を、より明確なものとし、指導と評価の一体化につなげることができるように、振り返りシートを活用して、子供の学びを見取る。
- ④ 子供の言語活動の充実に向け、話し合いマニュアルの他にも、全校の場で自分の得意なことや興味あることを表現する「かがやき発表」を位置づけたり、行事等の活動の後で、感想発表を毎回取り入れたりする。(感想発表では、より客観的に自分を見られるように、取り組みを点数化したり、相互評価を取り入れたりするようなマニュアルを作成した。また、全学年で朝の会でのスピーチを取り入れるようにした。)

< 1学期の成果と課題 >

- 本年度、自分が研究授業を行う教科について、新学習指導要領を読み、自分なりの「教科の見方・考え方」をまとめ、教員間で共有することにより、様々な教科の見方や考え方についての理解を少しずつ深めることができた。
- 話し合いのマニュアルを活用することで、子供たちの主体性が育ってきている。
- 右のような振り返りシートに記入させることで、その子の学習の定着状況、取り組む粘り強さ、調整力等について把握する材料となり、評価に役立った。
- かがやき発表、スピーチ、感想発表の点数化や相互評価などにより、表現力が身に付いたり、自己肯定感を高めたりすることに役立った。
- 「教科の見方・考え方」に関する理解がまだ十分とは言えず、教科として求める理想的な子供の姿や効果的な指導方法について研修中である。
- 振り返りシートの書き方の指導、書く時間の確保、見取ったことをどのように評価に生かすか等、研修中である。
- 子供たち同士での話し合いの深まりは、まだ十分とは言えず、マニュアルの見直しや教師の支援の在り方に関して研修が必要である。スピーチも6年間を見通しながら、各学年の発達段階に応じて継続していくことが大切だと感じる。

(調整)

<さんすう>ふりかえりシート (低)

(2) 年 名 前 (A.K - 飛躍的 進歩)

つき月日	わかったことや たいせつなこと	がんばったこと・きをつけたいこと つぎに べんきょうしたいこと
6/10	たのけを0に お (おはらい)	わたしはきつうの10と 10を はりました。
6/11	たのけをく らでる。	つぎは 百のけ いとたのけをく たいです。
6/12	いろばん小さいぬ りてかきするの めがたうん した。 (おはらい)	つぎもめり がはりました。 調整
6/17	まは 250 (おはらい) あかす。7言の おはらい	わたしは 330 330がとく からきつう たいです。
6/18	きう一人まなびで ひよこをが えんたい あつた	きう一人まなび がわが たいです。
6/24	きうは百のけ たのけが が二のけ あつた。	つぎも たいです。
6/23	きうは 120-300 きが おはらい あつた	つぎ 1900のけ やて見たい たいです。

調整

※2年生の算数の振り返りシート
子供の理解の定着状況や次につなげる調整力等の把握に役立った。